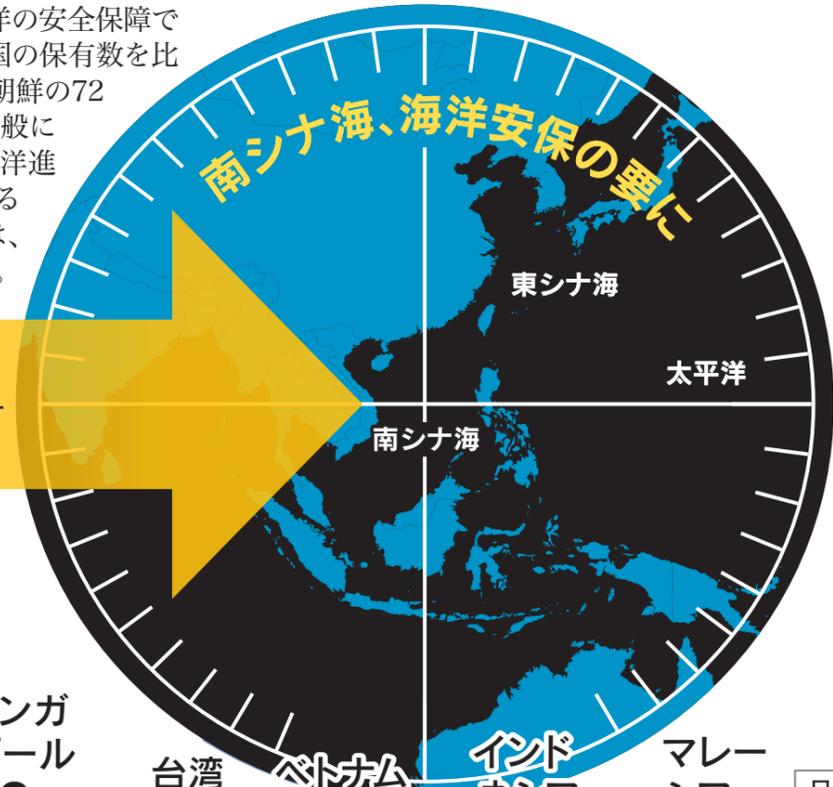


潜水艦、アジア・太平洋に4割

中国原潜の脅威論高まる

敵に察知されないよう深く、静かに海を潜りながら航行する潜水艦は、海洋の安全保障で一段と重要性が高まっている。英国のシンクタンクなどの調査をもとに、各国の保有数を比較すると、世界の4割がアジア・太平洋に集中することがわかる。トップは北朝鮮の72隻だが、母船に収容されることもある小型潜水艇などを主力とするため、一般に「潜水艦」と呼ばれる艦船は20隻以下とみられる。一方、東・南シナ海への海洋進出を活発化している中国は70隻で、弾道ミサイルを搭載する原潜も保有するなど軍事的脅威は増している。アジア太平洋をカバーする米国の第7艦隊は、この地域に8~12隻の潜水艦を展開させ、海上自衛隊と緊密に連携している。



電子版で「もっと発見！」

数字が語る南シナ海 争い招く豊かさ

日経ビジュアルデータで検索



北朝鮮 72隻

中国 70

潜水艦保有数

アジア・太平洋 約240隻

世界全体 約520隻

韓国 23

ロシア 約20

日本 19

米国 約12

オーストラリア 6

シンガポール 6

台湾 4

ベトナム 4

インドネシア 2

マレーシア 2

小型潜水艇

- 一般に水中で活動可能な船を指す。居住性が低く、長時間の潜航は困難で、燃料が少ないため基本的に母艦(母船)が必要な場合が多いとされる。軍用の場合、偵察任務などに適しているとされる

通常動力型潜水艦

- 原子力ではない動力を搭載するという対比で使われ、ディーゼルエンジンで動く潜水艦。原潜に比べて航続距離は短く、浮上航行の頻度も多いが、事故による放射能汚染の危険性がないなどのメリットもあり、各国で運用されている。電池容量を増やすためリチウムイオン電池を搭載し、さらに長時間の潜航を可能にした潜水艦も登場している

原子力潜水艦

- 一般に動力に原子炉を搭載する潜水艦。原子力技術を持つ国しか製造できない。米国、ロシア、中国に加え、英国、フランス、インドが保有しているとされる。不測の事態が発生しない限り、航続距離の制約がないため、長期間の潜航が可能。弾道ミサイル潜水艦(SSBN)は核弾頭を搭載できる

国・地域別の潜水艦の主な特徴

- 推進音が極めて小さいのが日本の潜水艦。原潜は深く潜航できるものの、原子炉で作られた高温高圧水蒸気でタービンを回し電力を得るため、騒音が発生しやすい。空気を取り入れることなく、3~4週間もの間、潜航できるのが海上自衛隊の潜水艦だ

- すべてが原子力潜水艦
- 第7艦隊以外にも世界中に展開。捕捉は極めて困難とされる
- 米国本土が先制攻撃された場合の即応体制を常にとる

- 小型の潜水艇(潜水艇)が多い
- 8月24日に潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)を発射。約500キロメートルを飛行

- ロシアから購入した潜水艦の改良型が多い
- 射程約8000キロの弾道ミサイルを搭載しているとみられる新型艦を配備